

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473700258	事業の開始年月日	平成9年11月27日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	医療法人社団 三喜会		
事業所名	グループホーム青葉台		
所在地	(227-0054) 横浜市青葉区しらとり台3-9		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 9名 ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	令和5年7月12日	評価結果 市町村受理日	令和5年11月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

青葉台の地で25年、地域に根ざした認知症介護に取り組んできました。建物は決して新しいとは言えませんが、温もりのある家庭的な環境の中で、ご自分らしくゆったりと暮らしていらっしゃいます。また利用者様がお望みであれば最期まで青葉台で安心して暮らせるよう、主治医、看護師等と連携協力し 最大限の支援をさせていただきます。日々の生活の様子を広報誌ファミリーやFacebookにて紹介しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年9月20日	評価機関 評価決定日	令和5年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

東急田園都市線「青葉台」駅から徒歩8分の所にあります。同法人が運営する小規模多機能型居宅介護、訪問介護ステーション、デイサービスセンターが同一敷地内にあります。

<優れている点>

管理者は、認知症の分類ごとのケアを極め、エビデンスの裏付けに沿った支援をしており、入居者および家族から大きな信頼を得ています。管理者は文献やデータから要因を突き止めて的を得た対策を講じています。入居者の行動心理症状が現れた時には、どの職員でも適切な支援ができるようにしています。キッチンの壁に症状に対応する台詞を掲示するなど工夫をしています。また、目的とする場所が認識できなくなった時にも、誘導表示が視界の中に入るように、掲示を行動目線に合わせて多数配置することで1人で目的地まで行ける工夫をしています。また、絵心のある利用者の一つの動機付けとして、他の利用者の誕生日に似顔絵制作をしています。誕生日に間に合うよう前もって時間の余裕を持ち、「今日はここまでにしましょうか」と利用者の様子を見極めながら最後まで仕上げるように支援しています。

<工夫点>

敬老会等のイベントでは、当日の進行について、役割りに予め氏名を書き込み大判の用紙で張り出すことで、自分の役割を意識してもらい、参加のモチベーションを引き上げています。日常の様子や暮らしへの取り組みについて複数のSNSを活用して発信しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム青葉台
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を創り、玄関、事務所、台所等に掲示しています。カンファレンスでは職員全員で理念を振り返り、実現にむけて、日々取り組んでいます。	事業所独自の理念を掲げ、常に目につく場所として、玄関・事務所及びホールに掲示し、職員の士気を高めています。また、カンファレンスにおいて、職員の具体的な例示を基に実現に向けて日々取り組みをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日々、外気浴や散歩に出かけています。そのお写真をご家族にお送りすることも喜びられています。自治会にも加入し、役員の方とは散歩の際によくご挨拶をします。	利用者個人の対応に重点を置き、散歩等の場面において、地域の人々との交流を実践しています。コロナ禍においても濃厚接触を避け、出来る限り散歩等の外出を実施し、地域のつながりを重視しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者は、地域の介護者の集いに参加したり、認知症サポーター講座に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めています。季刊誌のファミリーでは、認知症ケアのアドバイスも紹介しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議において委員の方々から頂いた貴重な意見を真摯に受け止め、サービスの質の向上に役立てています。	ここ3年のコロナ禍の中、紙面開催を実施しています。前回までは、グループホームの理解を深めることに重点を置き、地域包括支援センターや青葉区職員等の担当者との交流を積極的に実施しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	横浜市の青葉区担当職員、保険福祉センター職員の方と面識があり制度のことを教えて頂いたり、協力し合える関係が出来ています。キャラバンメイトにも参加しました。	横浜で開催するキャラバンメイト（認知症キャラバン活動で講師を担当）の打ち合わせに参加したり、青葉区のグループホーム連絡会に参加し、区内の居宅支援事業所に情報誌を送付し、グループホームの情報啓発を積極的に行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	月一回の業務カンファレンスの際には必ず、虐待を取り上げ、早期発見、事前防止に努めています。又、身体拘束防止のポスターを廊下に掲示し、職員が日頃から目にするようにしています。	身体拘束虐待防止委員会を定期的実施しています。職員に、新聞記事等で得た具体例を提示し、どこに問題があるかなどの事例検討を重ねています。管理者は厚生労働省の定めた認知症介護指導者の資格を有し、根拠に基づいたケアを実践しており、職員教育の一環として成果を上げています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のカンファレンスや研修等を通じて、虐待防止に対するお互いの意識を高めあい、早期発見、事前防止に努めています。職員の過重労働がストレスになるので、業務マニュアルを見直している。	虐待防止の研修等を通じて、事例を交えて検証しています。科学的な裏付けに基づいて課題を提示し、自らの理解を促すスーパービジョンの手法を駆使して実践しています。職員はそのケアの意味することを考えながら理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や副主任が研修に参加しており、利用者が必要が生じれば、市の担当者の協力を得て、制度を活用する準備が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	単に契約を結ぶという姿勢でなく、不安を抱えている家族の話をしっかり傾聴し、こちら側に話が聴ける状態になった上で、わかりやすく、理解できたかを確認しながら行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の訪問の際に何でも話して頂いています。また苦情等の窓口（内部、外部）は契約時において重要事項の中で説明しています。又、運営会議でのご家族からの意見も反映させています。	家族の意見を積極的に傾聴し、外出の機会を多くとって欲しい等の要望に応え、散歩等の機会を出来る限り多く取り入れています。また、定期的なショッピングの機会を設け、社会交流の場面を暮らしの中で実践しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスにおいて、様々な意見や提案を出してもらっています。認知症介護においてはチームケアが基本である為、職員の意見を積極的に聞くようにしています。	利用者へのケアの疑問や関わり方に管理者が適宜なアドバイスをすることにより、より良いチームケアを実行しています。また、重度の利用者へのアプローチも管理者の的確な指示や実証によって疑問を解決し、職員のスキルが向上しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の努力、取り組んできたことに対して適切な評価をしてくれています。また、スタッフ各々が自己研鑽できる研修等に理解を示してくれています。	職場環境において、常に管理者と職員の動向を把握し、困っていることを受け入れて、次のステップにつなげ、やりがいの持てる処遇を心掛けています。また、職員研修の機会も積極的に取り入れ、意欲の助長になっています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフまた事業所全体のレベルアップの為、様々な研修への参加の機会を与えてくれます。	管理者は認知症介護への取り組みを極めて積極的に行い、内外の研修の機会を多く取り入れています。重度化する認知症の人へのケアに対応する能力向上につなげ、あらゆる認知症の症状に前向きで尊厳をもって業務に励んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	敷地内の訪問看護ステーションや小規模多機能型居宅介護事業所の管理者とは常に連絡、相談し、さまざまな情報の共有に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期の関係作りは特に大切なので、職員はリロケーションダメージを理解しています。普段から職員は笑顔を絶やさず、不安そうであれば、こちらから声をかけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との関係もとても大切にしています。電話で相談事を聞いたり、見学時にもお話を聴いています。またグループホームの歴史や役割も丁寧に説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際は、利用者と家族の状況を第一に考え、事業所だけで解決しようとせず、関連機関と連携をとり、他のサービスも視野に入れた検討をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「共に生きる」を合言葉にしており、「して下さって」ありがとうございますを大切にしています。ホームの主役は利用者様です。スタッフは脇役として出来ない部分をそっと手助けをさせて頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にはお茶を居室に運び気兼ねなく家族団らんのひと時となるようにしている。また毎月、心身の状況がわかる家族連絡表を送付している。誕生会等を通じて利用者を共に支える関係も出来ている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人が、ホームを利用者様の家だと思って気軽に来られるよう配慮しています。また、年末年始等、ご希望の方にはご家族の住む自宅に帰ることが出来る為の相談・支援を行なっています。	定期的に利用者の馴染みの関係者の訪問があり、利用者の楽しみの時間につなげています。来訪しやすい環境作りからはじめ、利用者への手紙などの受け渡しの援助を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を見極め、場面設定したり、座る席を考慮して円滑な交流が図れるよう支援しトラブルになりそうな場合は介入しています。レクリエーションや散歩等では利用者同士のコミュニケーションも視野に入れています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	一度、利用が中止になった方であっても、相談を受けたり、または その方が必要としている支援が受けられるようお手伝いしていきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	重度化により本人の意向が掴めない時は、その利用者が認知症でなかったらどう判断するかが重要になるので発症前の生活の様子を再アセスメントしたり、ご家族から本人の意向を伺っています。	認知症による排泄時の失認場面で、本人のみに通じる色付きのマーク（目印）を、手順にしたがって目に付くように配置していくことで、本人に合わせた手順を間違えることなく、自力でスムーズにできるようになった事例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	可能な限りの情報を収集し、しっかりと生活歴を把握し、能力が最大限に発揮できる生活を送られるように（自分らしく生きる）、できること、できないことを見極めケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	のんびり、ゆったりを基本に心地良い疲労感、活動ができるように必要に応じて計画をたてており、その場の状況にあわせて柔軟にアクティビティを提供しています。「誤りなし学習」を取り入れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画にあたっては、視点が片寄らないように、さまざまな意見を取り入れている。利用者の心身に変化が現れた際は家族、関係者等と話し合い、本人の負担を考慮し、新しい計画を作成している。	アセスメントでは、ICF（国際機能分類）を念頭に、できること・わかること・手伝えばできることなどのプラス面に注目し、さらに「いつだったらできるか」という時系列の意識を持ってプラン実行に臨んでいます。日々の実施チェックはモニタリングに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の様子を個別ケア記録に記入し申し送りやカンファレンスにて情報の共有を図り6ヶ月に1度又は状態の変化に応じてケアプランの評価をし、変更内容は申し送り連絡帳等を通じて伝えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者、ご家族のご要望に最大限応じるために柔軟な対応を行っており、夜間の面会も受け入れている。医療連携加算を受けており、1週間に1度、看護師が訪問して利用者の健康維持に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議の地域包括支援センターの職員と連携を密に、情報交換や協力関係を築いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の先生がいますが、他にご希望の先生がいれば、その先生の往診が出来るよう調整します。通院が困難な利用者は往診を含めて協力医と情報交換をしながら、利用者の健康維持に努めています。	主治医の診察時は、日勤の職員または管理者がその利用者の日々の様子を伝えていきます。例えば、転倒した場合などは、早期にメールで写真を添えて、医師に状態を伝え、指示を受けています。多剤服用は副作用などの観点から減薬に努めるよう意識しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携の契約をしている訪問看護ステーションとはこまめに連携をとっています。何かあれば気軽に相談出来る関係が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院の担当医師、看護師、ソーシャルワーカーとの情報交換に努め、本人、ご家族の意向を大切にしながら早期退院に向けた働きかけを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期には、利用者にとって一番良いと思われる方法を家族や協力医等の関係者と相談して決めています。その上で、医師、看護師等の協力の下出来る事を最大限行っています。	終末期に差し掛かると医師・看護師・家族・ケアマネジャー・介護士などでカンファレンスを行い、情報の共有を図っています。最期を迎える場面では家族と密な連絡を取り合い、お見送りした後の一周忌には家族が来訪するなど、家族に満足してもらえるような支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事務所の目に付く所に緊急時対応マニュアル、緊急連絡網を掲示しています。利用者の急変、事故発生時には管理者や協力医に報告し、指示をあおいで対応しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練を行い、消防署にも報告しています。万一災害が起きた時には利用者を毛布にくるんで外に出すなど確認し合いました。自主FIG訓練も行っています。	定期的な防災訓練の他に、独自に自主防災点検を年一度実施しています。BCP（災害時の事業継続計画）の計画書をハザードマップとともに準備しています。火災発生時、避難行動を円滑に行う対応力強化の火災図上訓練（FIG）についてはDVDを視聴して参考にしています。	地域の人の参加を得ることで、ホーム内の間取りや利用者の様子を知ることができ、双方協力の第一歩となることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様を一人の人として尊重しています。常に相手の立場に立ち、誇りやプライバシーを損ねる言動は慎んでいます。また、そのような言動があった場合はカンファレンスで話し合います。	言葉の乱れについては、「です」「ます」を使用するよう、カンファレンスでその都度、取り上げています。他市で「～ちゃん」付けで呼んでいる介護施設が虐待認定されたことを例に出し、人格尊重の重大さを再認識する機会としました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	アクティビティの参加等でも自己決定の場面を設けています。また、夕食の際は好みの食材をお聞きして調理していますし、おやつも好みのものを提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしさを出す為には持てる力を最大限に発揮出来るように又あくまで主役は利用者であるようにしています。利用者が社会参加、尊厳され愛されていることを実感出来るように常に接しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一日の始まりのモーニングケアでは鏡に向かい、洗顔、整髪、を行っていません。衣類は季節感のある物を職員と一緒に選び、行事等には化粧、お洒落をして参加して頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には、調理（皮をむく、切る、炒める等）、配膳、片付け等声掛けをして、手伝っていただいております。	食材は日々買いに行き、職員の手づくりで食事を作っています。誕生会や敬老会では特別な食事を出しています。咀嚼力の低下がみられる人には、ミキサーにかける前に料理の写真を見てもらった後に食べてもらうように配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェック、栄養バランスを考慮した献立。ティータイム、食事の際のお茶で1日の水分を取って頂いています。水分不足や嚥下不良の方には声かけや形態を変えたりトロミにて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師、歯科衛生士の指導の下、口腔内のケアを行っております。夜間は義歯をお預かりして、洗浄剤にて消毒もしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	家族からの情報、利用者様の入居後のデータを有効に活用し、一人ひとりの排泄リズムを把握。声掛けや誘導等を行い、できるだけトイレで排泄出来るように自立に向けた支援を行っております。	夜間リハビリパンツ利用であってもなるべく日中は布パンツを使用してもらえるように支援しています。排泄の自立に向けて、トイレ認識力を持ってもらうために、動線内の矢印や目立つ色を使った行動手順のサポートをすることで、排泄の自立達成ができた例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、水分補給、運動、ヨーグルトの摂取、服薬等様々な取り組みを行っています。、トイレでは、必要に応じて腹部マッサージをして排便を促しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	要介護度の高い方は職員が2人体制で支援しており、ゆず湯などのお楽しみの日もあります。体調や気分を考慮し、その方に適したタイミングで入浴していただきます。	ユマニチュードの「見る」「話す」「触れる」「立つ」を実践しながら結果として、その人の「安心」を引き出すようにしています。意味記憶が低下した人への支援では、その意味するものを動きや表情で示し、安心して湯船に入れることを伝えるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜は温度、照明から体調面まで気を配り安眠できるよう支援しています。またTVやラジオを楽しみながら就寝に入る方もおり生活習慣を大切にしています。足が冷えて眠れない方には温枕を使用します。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬説明書をファイルし、必要時確認している。与薬を間違えないよう日勤と遅番で2重チェックを行っています。※薬のセットは薬剤師に依頼しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の日々の様子や、ご家族から聞いた生活歴、興味、関心等の情報を活用し、アクティビティ、役割活動を通し張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や体調、気分等を考慮し安全を確保した上で外出できるよう心掛けています。天気の良い日は外気浴で散歩に出掛けたり、ご家族もお墓参りや外食、散歩などに行かれ、外出にとっても協力的です。	利用者の外出の判断は、利用者に合わせて職員が自由に判断し実施できるように指導しています。新型コロナウイルス感染症も地域によっては落ち着いている状態となり、外出の機会が徐々に増えてきています。最近では殆どの利用者の外出支援を行っています。	車いす利用者の外出の機会を創出することで、より多くの入居者の満足度が高まること期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段の管理はホームでしていますが、家族との話合いで少ない金額ですが、安心感の為、お金を自分で持っている方もいられます。必要があれば、職員と一緒に買い物に行き、自分の好きな物を買っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があった時には、職員がお手伝いをして、ご家族とお電話でお話しをして頂いています。手紙が届いた際は、ご本人に直接、読んで差し上げています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは、利用者様にとって馴染みのある懐かしいものを配置し、居心地良く過ごしていただく為の様々な配慮をしています。あえてソファを置き一休みする場にはしています。	利用者の「人が恋しい」、「暗がりがかわい」という不安を払拭する意味で、照明効果や生活音、軽音楽などの適度の音のある空間を意識しています。相性のいい人同志を隣合わせに座ってもらうことで、安心してコミュニケーションがとれるよう心配りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	デイルームにソファを2つ設置し、一人、もしくは気の合った仲間とゆったりと過ごせる空間を作っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人、ご家族と話し合い、家具等の配置を決めています。各自たんすや時計、写真などを持ち込み安住の場になっています。少しでも安心して過ごしていただけるよう新しい物よりも使い慣れたものをお持ち頂いております。	個室で絵を描いている人はアトリエの雰囲気のある居室となっています。恩師の先生が描かれた絵を飾ったり、他の利用者の誕生日に間に合うよう似顔絵制作をしています。一日のスケジュールを掲示している人もいます。利用者が不安にならないようにスケジュールを可視化することで一目瞭然に理解しやすくする工夫もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の身体機能を安全に活かせるよう廊下トイレ浴室には手すりがあり歩行不安定な方にも、安心して歩けるようにしてあります。トイレの場所が分からない方には矢印等を置くようにしています。		

2023年度

事業所名 グループホーム青葉台

作成日： 令和 5年 11月 3日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築く必要がある。	定期的に防災訓練を行っているが、火災や災害はいつ起きるか分からない訳で、地域の方や面会中のご家族に参加して頂くことも大切である。	運営推進会議の中で、防災訓練の参加の呼びかけや、外出時に地域の自治会や商店会の方に呼びかけを行う。現在、ボランティア活動や、受け入れはコロナにより、中止となっているが再開後には、お声かけを行う。	1 2ヶ月
2	49	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めたいが、ご家族の希望も含め、少し不足している。	天気や体調、気分等を考慮し安全を確保した上で外出できるように考えている。	歩ける利用者は散歩や買い物に適宜、出かけているが、車椅子の利用者の外出や外気浴があまり出来ていない。ご家族から少しでも外の空気を吸わせてほしいという希望が多いこともあり、まずは外気浴から行っていく。	1 2ヶ月
3	52	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮しているが、午後に斜陽現象やせん妄で不安になる利用者がある。	リビングは、利用者がとことんリラックスでき、居心地良く過ごして頂ける共用空間と考えている。	脳の血流低下からくる斜陽現象（夕暮れ症候群）やせん妄が起きやすい利用者には、事前に予防効果のあるカフェイン飲料であるコーヒーを飲みながらリラックスして頂き、存在不安で落ち着けない利用者には、馴染みの利用者や隣り合わせにソファに座って頂きくつろげるように配慮する。	1 2ヶ月